

目指す学校像		群馬県農林業の多様な担い手育成						達成度	
重点方針		1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行						A 100% B 80%以上100%未満 C 60%以上80%未満 D 60%未満	
番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見	
1	質の高い教育の実行	<p>1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。</p> <p>2 課題解決型の研究に取り組み、能動的に学ぶ力を育てている。</p> <p>3 1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育てている。</p> <p>4 農林業の国際化や技術・情報の高度化、農業の6次産業化に対応できる技術の習得や組織活動等のマネジメント能力を養成するため、実践学習を強化し、取り組んでいる。</p> <p>5 国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。</p> <p>6 平成31年3月に、新たな施設園芸経営の形を創造する拠点として「ぐんまイノベーションファーム」が農林大に設置された。IoTやICTを活用した最先端の技術を授業に取り入れることにより、地域農業を牽引する優れた経営者の育成をめざすとともに、地域に開かれた実証モデル施設として最先端技術を発信している。</p>	<p>・学生にとって分かりやすい授業の実施</p> <p>・学生がやる気と自信の持てる教育</p>	<p>・授業評価に基づく授業方法の改善 コース専門科目の授業アンケート (R1:教養科目・共通科目)</p> <p>・よりよい授業のための職員への支援 (職場研修、派遣研修)</p> <p>・能動的に学ぶ力を育てる アクティブラーニング型の授業導入 (全コースに導入)</p> <p>・課題研究・意見発表等への取り組みの強化 (全国大会出場を目指す)</p> <p>・先進農林家等体験学習をインターンシップと兼ねるなど効果的に実施 インターンシップ先への就農・就業</p> <p>・国際水準のGAPを実践 模擬審査を校内で実施</p> <p>・イノベーションファームを活用した学習 収量、品質の向上</p> <p>・6次産業化学習の強化 販売学習、地域等と連携した商品開発</p> <p>・プレゼンテーション能力の向上 1分間スピーチ</p> <p>・基礎学力向上 実習等で必要な学び直しの補講の実施</p> <p>・学業優秀者、生活態度優秀者の表彰</p>					

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見	
			・社会生活の基本を身につける	・寮生活を通して規律、協調、思いやりの精神を育む ・学生、職員一体となったあいさつ運動の実施					
			・地域、外部機関との連携	・地域貢献等 箕輪城周辺の環境整備 地元小学校との交流 子ども食堂との連携による食育 ・イノベーションファームの活用 農業技術センターとの連携による最新技術の実証と普及					
			・教育環境の充実	・感染症対策の徹底 ・寮の生活環境改善 ・施設整備計画の作成 ・キャンパスの環境整備					
			(数値目標と評価)	◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上 ◎アクティブラーニング型授業の導入 8科目(各コース1科目以上) ◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上 ◎懸賞論文等への応募者(森林コース除く) 1年生 100%					
2	実績の上がる学生募集の実行	1 少子化により減少傾向であった入校生も、HPの更新や学生募集の強化、PRにより2年連続で8割を確保している。(平成31年度86名、令和2年度83名/定員100名) 2 近年の入校生の状況は、非農家出身者が増加(令和2年度入校生:76%)していることと、女子学生が約3割を占めている。 3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(令和2年度入校生:60%)であり、農業高校との連携とともに、普通高校へのPRが重要となっている。	・農林大学校のPR	・新しい形のオープンキャンパスの開催 ・県内高校への学生募集訪問 全職員での取り組み(9月) ・情報発信の強化 学校案内やHPによるPR(動画の導入) イノベーションファームの活用(最新技術が学べる施設のPR) ・全寮制に対する不安解消 在校生から寮生活の楽しさを伝える(学生メッセージを送付)					
			・農業高校との連携強化	・連携会議等を通じた情報交換 農業高校の担任等へのPR強化 ・学校見学会の積極的な受け入れ ・職員による派遣講義で高・大連携を深める ・全寮制に対する不安解消(再掲) 在校生から寮生活の楽しさを伝える(学生メッセージを送付)					
			(数値目標と評価)	◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者120名 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上80%以上 ◎高校訪問 45校 1回実施 ◎HPの更新回数 100回以上 動画の発信 10回 ◎入校生の確保 80名以上					

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
3	実績の上がる 進路指導の実行	1 令和元年度卒業生の進路決定率は100%で、進路決定者のうち就農23.5%(森林コースを除く25.9%)、就職72.1%、進学4.4%であった。農林業団体への就職が良好であったことが特徴である。	(1年生) ・進路希望の把握と進路指導体制の強化	・進路方向の決定と進路別指導 個別面談 希望調査				
		2 森林コースを除く就農率は、近年20～30%と減少傾向となっている。うち雇用就農は70～80%で雇用就農者が増えている。		・進路ガイダンスによる指導(2回)				
		3 家庭の事情等により、社会に出て経験を積んだ後に就農する学生もいる。		・就農・就業の促進 農業法人等説明会の開催(9月) ・就職活動支援 企業説明会の開催(3月)				
		4 近年、林業への就業率は60%を超えている。特に森林組合への就業者は増加しており、林業の担い手として期待されている。		・社会人としてのマナーアップ講座等の開催(2月)				
		5 感染症の影響により、企業等の経営が厳しい状況であり、採用への影響が危惧される。		・就農、就業(林業)への支援 農業法人、森林組合への理解を深める。 海外研修への参加誘導 農業次世代人材投資資金(準備型)、緑の青年就業準備給付金の活用				
			(2年生) ・きめ細やかな進路別指導	・就農者、雇用就農者、就業者への支援 農業法人の情報収集と分析指導 就農・就業に向けた学内企業説明会の開催(9月) 関係機関との連携強化(ハローワーク等) 海外研修への参加誘導 農業次世代人材投資資金(準備型)、緑の青年就業準備給付金の活用 農業法人協会、農業経営士、農村生活アドバイザーとの連携				
			・専門資格取得教育の強化	・補講の実施 毒物劇物取扱者 危険物取扱者(乙4類) 日本農業技術検定2級 他				
		(数値目標と評価)		(2年生) ◎進路決定率 100% ◎就農率 40%以上 ◎林業関係の就業率 60%以上 ◎日本農業技術検定(2級)の合格者割合 30%以上 ◎合格率 毒物劇物取扱者 30%以上 危険物取扱者(乙4類) 30%以上 農業機械系資格 100% 狩猟(わな猟)免許 100%				

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見	
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 令和元年度の農業実践学校は、定員136名を超える156名の応募があり、書類選考と面接により142名が入校した。その中で、野菜専門技術課程の修了生は、全員が営農計画を策定し就農することができた。 修了3年後(平成28年度実践学校各課程修了者)の農業従事率は82.8%であった。	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営	・就農に向けた体系的な研修の実施 各課程の修了者について就農状況調査を実施					
		2 農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。道路運送車両法の運用緩和により、免許取得研修の希望者が多くなっている。		・研修生の確保に向けた取り組み 新たにトラクター操作講座を実施 ニーズに対応したコースの充実					
		3 令和元年度の公開講座は、果樹、野菜づくり、加工、農業機械まで幅広いテーマにより、一般県民を対象とした9講座を計11回行い、参加者数は延べ266名であった。感染症の影響で3月に開催予定の1講座は開催を中止した。	・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施	・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得 免許取得研修の効率化					
			・新たな労働力の育成強化研修 ハローワーク等との連携						
			・農作業安全研修等の実施 農業事務所、JA等と連携し就農者育成に貢献した研修の実施						
			・感染症対策に対応した研修の実施						
			・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	・職員の専門性を生かした講座の実施					
		・感染症対策に対応した講座の実施							
	(数値目標と評価)			◎実践学校研修生の満足度評価 「おおむね満足」以上 90%以上					
				◎実践学校研修生の定員確保 100%					
				◎実践学校修了時の就農率 野菜専門技術課程 100% 実践学校全体 95%					
				◎大型特殊自動車免許等取得 合格率 100% 研修日数 2日の短縮					
				◎労働力育成強化研修の開催回数と受講者数 12回/138名					
				◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 20回/200名					
				◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上					